

## 命の水を大切に

水なしで人間は生きていけない。古来より人間は水を求めて生きてきた。水のある所でしか生活が出来なかった。がしかし水資源の乏しい所であっても、世界有数の経済先進国として 500 万人近い人達に、安定供給している国がある。それがシンガポールである。

とは言っても十分な水があるわけではない。「水を制する者は世界を制す」という言葉がある。日本ではたかが水。されど近年に入って加速的に水の価値が上がってきていると感じざるを得ない。飲み水は殆どお金を出してペットボトルで購入する時代となっている。



私が住む兵庫県の人口は 550 万人。神戸、尼崎、西宮、加古川、姫路、それぞれが大都会である。それがシンガポール（500 万人近い）と同じ面積しかない淡路島（人口 14 万人）に、県の全ての人が移動したことを想像した。

ここシンガポールは淡路島と違って殆どが平坦な国土のため、貯水能力に乏しく自力で安定した水の供給は不可能である。そのためこれまで隣国マレーシアより、国家と国民の生命線である水の約半分を輸入してきた。その国境ジョホール・バルを結ぶ全長約 1Km のコーズウェイ橋には、橋上に 3 本、橋下に 1 本、そして海底に 2 本のパイプラインが敷設されている。

しかし国家の命運に関わる水問題は他力本願では何とも心細い。そのため自力で水を確保する方法が実行されている。下水道の再利用、海の水を濾過する方法等々。

街の中心部をゆったりと流れるシンガポール川を眺めていた。この川がいつまでも美しくあってほしいと祈りつつ。

撮影 2011 年夏

